



中沢かつゆき 通 信

自民党鎌倉市会議員

<http://www.nakazawa.jimusho.jp>



自由民主党



自民党鎌倉市連合支部幹事長

市政に関するご要望、皆さまの声をお聞かせください！

9月議会

鎌倉市が契約先である事業者から白紙請求書を捺印して送るよう依頼し、職員が金額と日付を記入していたことが発覚。さらに、委託先から提出された請求書の金額を職員が勝手に訂正していたことも発覚。その理由として、期限切れワクチンを接種していた時は、補助金を支払わないので訂正しているとしていました。しかし、期限切れワクチン接種については、鎌倉市では報道もされたことはなく、議会への報告もありませんでした。鎌倉市では全くないとしてきた期限切れワクチン接種に対する説明が、日々二転三転する中、全てを調べる必要があると判断し、一般質問中に休憩を取り調査。驚くことに、既に県へ予防接種事故として「医療事故届」が提出されていたことが判明。この事実を課長以上誰も知らなかったことも判明。さらに、調査で新た

白紙請求書問題

鎌倉市で、白紙請求書を事業者から受け取り、職員が日付や金額を記載している資料を情報公開請求したのは、8月初めでした。その後公開となった資料を見て、愕然。医師からの請求書を職員が改ざんしている事実がそこにありました。

理由は、期限切れワクチンを接種していた時は補助金を支払うことはできないので、「訂正」しているという回答。しかし、請求書に訂正印はなく、勝手に改ざんしていることは明らか。改ざんした職員のサインもありました。そして、他の課でも白紙請求書の使用があるのでは、と全ての課に対して調査。平成24年と25年度で573枚の白紙請求書を使用していた「事業数」が出てきました。平成22年度から出は、1164事業。年間の白紙請求書使用枚数は、2,000枚を超えています。しかも、この白紙請求書、鎌倉市顧問弁

に期限切れワクチン接種が1歳の子供を始め10人に行われていたことが判明。同じ医師から何度も期限切れワクチン接種が行われていることもあり、インフルエンザワクチン接種についても調査。この予防接種は、鎌倉市からの委託事業であり、鎌倉市は業務委託契約を結んでいます。しかし、その事務全てを鎌倉市職員が行っていたことも判明。さらに調べていきますと、白紙請求書は、多くの課で行われており、その枚数は年間2,000枚を超えています。なぜこのような白紙請求書の職員による記載が行われてきたのか。また、なぜ職員誰も止めようとしなかったのか。この職員による白紙請求書記載を止めたとき、大きな行政改革になります。まだまだ時間がかかる問題ですが、徹底的に調べていき事実を明らかにしていきます。

護士も提出していました。定期的な顧問料だけでなく、訴訟委任報酬までも白紙請求書で処理していました。これに対して、顧問弁護士は当事者であるにもかかわらず、「問題ない」と回答。職員のほとんどは、「問題があります。今後、一切行いません」と話しているにもかかわらず。この問題の根の深さを感じています。予防接種等の委託事業では、担当職員6名を配し事務作業に当たらせていました。もしこの事業の事務作業を委託先に行わせるとこの職員は必要なくなります。しかし、委託先は事務作業はできない、と明言。ならば個別契約を行い事務作業を職員が行うようにすべきではないか、と回答を待っています。あまりにも杜撰な事務作業を職員が長年にわたって行っていることに、徹底的に真実を明らかにする必要があります。

子供たちへの期限切れワクチン接種問題

白紙請求書使用に端を発した、期限切れワクチン接種問題。医師からの請求書を鎌倉市職員が請求金額を改ざんをしている事実が、情報公開請求で明らかとなりました。その聞き取りの中で、期限切れワクチンを接種した時には補助金を支払うことができない、ということで正当性を回答しました。しかし、そもそも、期限切れワクチン接種は大問題。補助金の支給ということに矮小化できることはありません。この時、他市では期限切れワクチン接種で県に事故報告している事例はありますが、鎌倉市ではありません、と明言していました。それでも、実態調査を依頼しましたが、全く調査しようとはしませんでした。9月定例会一般質問で取り上げ、ようやく調査することに。その結果は、「小出し」という言葉がふさわしく、朝と午後の報告が変わることが数日。ようやく、8件の県への予防接種による医療事故報告を認めました。この医療事故報告は、医師から鎌倉市に報告がされ、鎌倉市から県へ報告するもの。つまり、鎌倉市は手続きを取っていたに

もかわらず隠蔽していたこととなります。他にも期限切れワクチン接種はないのか確認を依頼しましたが、時間がかかるという理由で拒否されました。期限切れワクチン接種は、「命と健康」の大問題。特に乳児からの法定予防接種は、その子の人生の大問題。真剣にとりくまなくてはならないことです。ここに至り、ようやく調査開始。法定予防接種については、10人の子供たち等への期限切れワクチン接種が明らかとなりました。期限切れワクチンを接種された保護者の方々には、鎌倉市の委託事業なので職員が直接謝罪するように依頼しましたが、全く動こうとしませんでした。医師から提出された医療事故報告書も、汚い文字の羅列のものがああり、誠意もなく全く事態の深刻さを感じていませんでした。期限切れワクチン接種だけでなく他にも医療事故が隠されているのでは、と思わざるを得ない状況です。まだまだ調査は続きます。

中沢かつゆきの経歴

経歴：昭和41年6月生

群馬県立渋川高等学校卒業
東京電機大学工学部情報科学科卒業
スパライズ株式会社代表取締役
大阪観光大学観光学研究所客員研究員
鎌倉中央ロータリークラブ副会長
材木座保育園保護者会会長
にかいどう子どもの家父母会会長
湘南獣医師会 顧問
鎌倉野球協会副会長
著書「安全な温泉・あぶない温泉」
(草思社刊)

鎌倉市議2期

二階堂在住

事務局：Tel 0467-61-0305

Fax 0467-24-5658

会期延長

9月議会は、白紙請求書問題と期限切れワクチン接種問題で、一般質問の途中で休憩となっています。正副議長も全く調整等に動こうとしない中、中沢から事務局を通じて、早急に議決する必要がある議案を提出してほしいと依頼しました。そして3議案の議決を急ぎたい、との話があり、即決を条件に採決を了承しました。内容についてはすでに説明を受けており、その中で質問も行っています。この3議案については、採決されました。他の議案についても、急ぎ採決が必要であれば採決を了承すると話してあります。一般質問で休憩となっており、本来ではありえない採決ですが、急ぐべき議案があるのであれば、一般質問席から自席に戻って採決ということを行っています。今回の問題も議案も市民の皆さんにとっては大切なこと。異例ですが、事態対応を行っています。

ほっと、一息：日頃の疲れを、温泉で癒してみませんか？

* 中沢かつゆきは温泉コンサルタントでもあります *



平湯温泉：北アルプスは長野県と岐阜県を境としています。この安房峠は、紅葉シーズンなどになると道路の狭さなどもあり渋滞して5時間以上かかることもありました。冬季は閉鎖され、長野県側には上高地、岐阜県側には高山につながっていますので、ここにトンネルを開通することは悲願でありました。長野オリンピックの前年、1997年に安房トンネルが開通。5分で北アルプスを抜けることができるようになりました。安房トンネルを抜けると、そこが平湯温泉。「温泉櫓」を見ることができます。この「温泉櫓」は源泉を定期的に清掃するためのもの。「温泉スケール」といわれる炭酸カルシウムが短期間で源泉内に固着してしまうので、「銚」のようなもので削る必要があります。そのために、「温泉櫓」を組んでいます。泉質は、ナトリウム・カルシウム一炭酸水素泉。適応症は、胃腸病やリウマチ性疾患、神経症、皮膚病など。紅葉、雪見などこれからの季節楽しみな温泉です。

<http://hirayuonsen.or.jp/>